

■卷頭言■

第31回全環研総会を終えて

全国環境研協議会会長 谷川義夫
(新潟県保健環境科学研究所長)



去る1月9日に第31回全国環境研協議会総会が活発な審議を経て無事終了しました。

次期会長の選出を始め平成15年度の事業計画、予算が承認され次年度へのスタートの体制が整い心強く思っています。会員各位を始め部会長、支部長および理事各位のご尽力にお礼申しあげます。次期会長にバトンタッチすることになりましたので、これまでの活動の思い出、引き継ぐことになる課題や全環研への期待等について述べさせていただきます。

まず感想でありますが、会員は共通の使命と目的を持っているとはいえる全国に散らばり、事務局と会長だけでは何ごとも進みません。その点、東京都、大阪府の副会長には何かとご相談に乗っていただき、アドバイスをいただいたこと等、感謝しております。

また国への要望などでは、環境省環境研究技術室徳田室長、国立環境研究所高木主任研究企画官を始めとする関係各位から心温かきご支援、ご指導をいただき、国からの全環研への期待をひしひしと感じました。全環研のこれまでの関係者のご努力と実績により国との連携を始めとして協議会内のチームワークと和の基盤が脈々と築かれており、その良き伝統のうえで活動できたことは、たいへん幸せな経験がありました。

さて、事業活動につきましては、ご案内のとおり部会長のご指導のもと活発かつ整然と実施されているところであります。事務局でのとりあえずの課題としては国への要望の実施およびその措置状況の報告の件がありました。環境省要望に対する関係部局の回答状況等をとりまとめたい旨環

境研究技術室に相談し、環境研究技術室からたいへんお骨折りいただきましたが、諸般の事情により結果的には要望に関する措置状況として総会に報告することはできませんでした。環境研究技術室には、この件に関するご支援を含め地方公共団体環境試験研究機関等所長会議のより有意義な開催などについても当協議会の意見についてご配慮いただきました。要望の実現には、時宜を得た的確な要望事項の選定、要望先との調整などの準備や継続的な要望活動の実施が必要と考えています。

また総会では、協議会規約の一部改正の提案がありました。提案された改正案は理事会での審議とその審議結果を踏まえ、次期総会で審議されることとなりました。協議会の円滑な運営と活性化に向けた観点からの検討をお願いする次第です。

最後に全環研への私の熱き期待は、「連携を通じてより一層の飛躍を」ということです。日本の社会全体が曲がり角の中で、なにかと試行錯誤が行われている昨今です。環境問題につきましても難しい問題が残り、ハードルの高い分野における実態解明に向けた取組みが必要で、課題解決に向けたさまざまな連携が求められています。

会員同士、研究者同士の情報交換、交流および連携は全環研活動の根幹であり、一層の取組みをお願いします。

幸いなことに、次期会長は環境研究全般にわたり経験と見識とも十分な埼玉県環境科学国際センター総長須藤隆一氏が担われることになりました。全環研の良き伝統であるチームワークと和を基盤として新会長の御指導のもと、連携を通じて全環研の飛躍を期待してやみません。